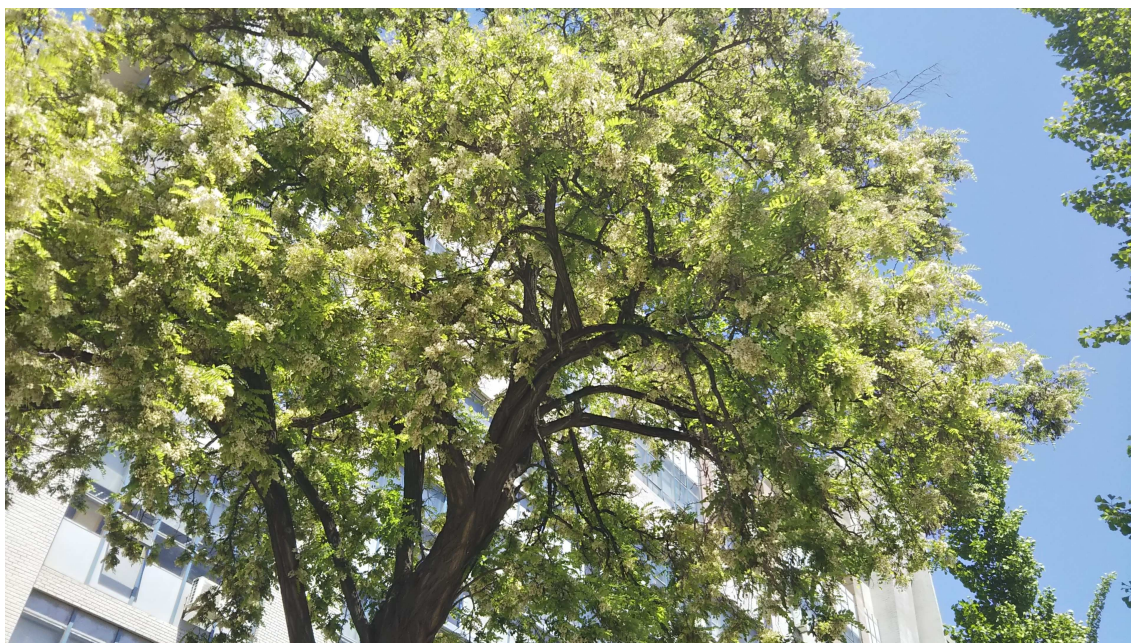


出会った人々 V

5月24日 金曜 天気は晴れが続く。

今日は最高気温が 30 度を越える暑さとなった。藤やバラの話を書いたが、この頃大連ではアカシアが道端にひっそりと開花する季節となった。以前紹介した都心の南側、南山辺りの街路樹がアカシアだったが、この花はクリーム・イエローの小ぶりの目立たない花なので、少なくとも大学のキャンパスでは人に言われないと気づかない地味な存在だった。中嶋・松岡両氏と歩いていて、これが話題となった時、松岡氏から図書館前のこの樹木をさして教えてもらった。



校内の道沿いに咲いていたアカシアの花

ところでいつ頃だっただろうか？我らが初級二班の教室に、ジーマが現れたのは？多分四月だったと思う。ジーマは他のクラスから転じて来て、そのままクラスメートとして定着した青年だ。見た目は、日本の東京にごく普通にいそうなアジア人なのだが、実は極東に住むロシア人。親は軍人だか公務員だか、堅実な仕事をしていると話していた。欧米出身の学生達がいつの間にか消えて行った一方、ジーマは最後までそこそこ出席していたと思う。

家が裕福なのでは？と思うことがあった。ある日キャンパス北側の北山食府で昼をとっていた時、広い学食の片隅にあるピアノに向かって坐り、慣れた手つきで弾いている青年がいた。曲が終わってこちらに顔が見えた時、ジーマだと気づき思わず拍手を送ってしまった。教室で話した時、どこの出身かと聞いたら、これがロシア沿海州のウスリースクというウラジオストクに近い地方都

市。なぜかこんな街にも旅好きの私は立ち寄ったことがあるので、アメリカのいなか町みたいだったよと、話したことを覚えている。日本人の顔立ちのジーマがよくロシア人の友達(男女とも)と一緒になのは当たり前だが、何か奇妙な感じを覚えた。

もう一人アジア人の相貌をした青年が 5 月だったと思うが入って来た。それが、ウランバートルから来たバトゥ。名前を聞いて、モンゴルの人には昔の英雄を自分の子につけるのでは？と思ってしまった。世界史ではモンゴルのチンギス=ハーンの長男ジュチの次男として、ロシア征服に功があった将軍として知られる名。実際のバトゥは穏やかで真面目な性格の青年だった。日本のどこにでもいそうな相貌をしている点では、ジーマと同じだった。

バトゥもわざわざ中国語学習のためにやって来たのだから、家庭はそれなりに裕福なのだろう。受け答えが丁寧で、両親ともに職業を持っていて、母親は学校の教師だか校長だかをしていると答えていた。二人は顔立ちやその雰囲気にも共通するものがあつたが、おそらくロシア語か英語でのやりとりもかなりできたのだろう。いつの間にか、二人で行動を共にすることが増えて来て、キャンパスで一緒にいる所をよく見かけた。

二人の故郷は大連からさほど遠くはない。しかし、国境の外である。中国の成長がその二人を惹き付けていると感じた。そして日本に住む者も、同じ東アジアにある大連へとやって来ている。大連は我々を結ぶ結節点(ハブ)となっている・・・。